



## Profile

### 一般社団法人 恵竹産業開発普及協会

代表理事 藤崎 稔さん

「竹」の無限の可能性を追求し、その資源化と新たな商品開発に取り組む。科学者としての一面を持ち、阿南工業高等専門学校の名誉客員教授として、学生に「竹の教科書」となるような最先端の学びを提供したいと人材育成にも力を入れている。

## 阿南の恵みの竹を活用した新しい産業！ 「恵竹」で未来をクリエイトする！

「竹ほど凄い植物はない！」竹は天から恵まれた最大の資源だ。「恵竹」の由来はこの思いから生まれた。バイオマス発電の研究を重ねる中で、竹の持つ潜在能力を次から次に発見し、それを多くの人に知ってもらって新たな産業として実用化するために有志と協会を立ち上げた。

阿南市那賀川町と福井町にあるプラントでは、竹を割いてドラム缶で蒸し焼き状態にすると、手前に竹灰・奥に竹炭が残り、パイプを通った蒸気は冷えて竹酢液ができる。この一連の過程で生成される製品のラインナップは竹チップ燃料から肥料・竹塩・竹酢液、未来資源となるオリゴ糖まで様々だ。多孔性に優れ、セルロースが最も多く取れるのが竹で、竹酢液は殺菌・防虫・農薬としての効果があり、ミネラルが豊富に含まれる竹塩は調味料として商品化を目指している。また、海藻を竹を沈めて繁茂させる実験も始まった。

2月には「活竹祭」に出店し「恵竹ブランド」の製品（有機農業の素・海洋再生の素・災害対策の素）を市民に紹介した。このほど、放置竹林を「恵みある資源」と捉え、竹林整備や竹産業の普及を実践する団体として「恵竹いかすかい大原」が誕生。たけのこ農家や若者・起業家の育成にも力を入れ、人員を募集中。阿南の竹を生かした産業づくりを全国に広めたい！と未来への期待が膨らんでいる。

